

第3回旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会会議録

日 時 平成30年10月18日(木)午後3時

場 所 久世エスパセンター会議室

出席者

委員)岡山理科大学工学部建築学科教授 江面嗣人、美作大学生生活科学部食物学科教授 遠藤健治、まにワッショイ代表 岡本康治、真庭市立落合小学校校長 奥山仁、東京大学生産技術研究所教授 腰原幹雄、真庭観光局地域マネジメント部マネージャー 眞柴幸子、真庭市文化財保護審議会委員 森上知洋、シネマニワ代表 山崎樹一郎、岡山ヘリテージマネージャー機構美作地域会 山崎真由美、真庭市副市長 吉永忠洋
オブザーバー)新東住建工業(株)文化財建造物木工技能者 芥川 英祐
事務局)生活環境部長 有元均、教育委員会教育次長 中谷由紀男、スポーツ・文化振興課長 大塚清文、生涯学習課長 武村良江、スポーツ・文化振興課参事 佐山宣夫、生涯学習課参事 森俊弘、スポーツ・文化振興課主幹 佐藤尚

(大塚課長)

定刻となりましたので、ただいまから、第3回旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会を開会します。

本日は、清水委員、井上委員が諸用により、ご欠席でございます。本日の出席委員10名で会議を開催させていただきます。

なお、本日、新東住建工業株式会社 文化財建造物木工技能者の芥川様にオブザーバーとして、お越しいただいております。芥川様は、本日ご報告をします構造調査を実施された方でございます。

本日の資料の確認ですが、委員会次第、席次、資料1(先進地視察報告書)、資料2(スケジュール案)、資料3(提言書案)、資料4(活用案)、資料5(保存・管理の状況について)、資料6(構造調査結果概要)、第2回検討委員会会議録でございます。参考に旧遷喬の図面もつけています。

開会に先立ちまして、江面会長からご挨拶をいただきたいと思っております。それでは、会長よろしくお願いたします。

(江面会長)

活用に関しては、近年、文化庁、文化財の様子も大きく変わろうとしている。

皆さんご存知のように文化財保護法が一部改正になって、今までは文化財の所管は教育委員会だった。それが首長の部局でもいけるようになった。

直接、首長の判断が仰げるといいのだが、これまでの議論の中で、教育という面と、文化財という面が離れてしまうということが危惧される。

国土交通省とか、観光とかは、インバウンドを増やすとか、活用の面がクローズアップされて議論されている。

考え方の基本に、明確にしっかりとした考え方、哲学をきちんと据えるが今後大事になってくると思っている。

知恵を絞っていただいて、発展的かつ創造的なご議論をいただいて、まとめ上げていきたい。

(大塚課長)

ありがとうございました。それでは報告事項に入ります。これよりの進行は、江面会長にお願いしたいと思います。

(江面会長)

先進地視察について、事務局より報告をお願いしたい。

(大塚課長)

(資料1により説明)

私の方からは以上ですが、会長・副会長からもお願いできればと思います。

(江面会長)

はい。今から15、6年前に豊平館に行った。それ以後に修理が終わっていて、後ろに新館を建てていた。附属棟を建設するなど、かなり活用というのを表に出していた。

耐震補強・修理の工事費用が、6億4百万。附属棟の新設が7億7百万円。

修理とか補強をするよりも、活用するのに、附属棟を建てるのにかなりのお金を費やしている。

バリアフリー化をして体の不自由な方にも見ていただける。市民に過不足なく公平に見ていただくという考え方が明確。

今回の修理の内容は、豊平館保存・修理の流れは、まず、耐震、それから保存・活用、活用・整備の流れになっている。

活用という面についても耐震補強がなぜ必要なのか、万が一にも人命を失うことや、人を傷つけることがあってはならない。

豊平館の工事概要の下側を見ていただくと、屋根裏の小屋組で、補強材を加えている。

文化財に耐震補強を施すだけでも、文化財的価値がマイナスにならないよう施工することは素晴らしいことだと感じた。

市民1万人に対してアンケートを行うなど、単なる専門家だけの集まりではなくて、確実に市民の考え方を反映しようとしている。

もう1つは、最終的に豊平館の運営とか、設備の所に、市民に対して豊平館の価値をどのように知らしめていけば、価値が上がるだろうと考えている。

豊平館の設備に出ている最新のバーチャルリアリティ見ると、豊平館がどのように使われてきて、どのようにしてきたか、ITとかいろんな機器を使いながら説明をしており、工夫をしているなどと思った。

とても勉強になり、いろんなことに気づかされた有意義な視察であった。

(奥山副会長)

豊平館は、非常に手入れがされていて、きれいだった。旧遷喬尋常小学校も手入れ次第で、非常に良い物になるのではないかなという印象を受けた。

中島公園に移設されたということで、公園自体、非常に環境が良い。

ここだけが良くなったのではないけない。まちづくりと一体だということを改めて思った。

真庭市は広くて、今後のまちづくりを考えた時にバランスよくというのがあると思うが、1つのモデル地区として、しっかり予算をいただいて、どんとやる。次につながっていけば良い。

(江面会長)

委員から何かご質問、ご意見をいただきたい。

(腰原委員)

全体としては、良い施設だなと思ったが、コスト面が合わないために飲食業者が撤退しているところ。

コスト面で合わないというのは、この場所であんまり食事をする人がいないという意味なのか、それとも施設の規模として、コストに合うような入居料ではないという意味なのか。

(大塚課長)

貸し部屋の利用率は、24%となっています。

採算が合わないで、飲食業者が撤退したということは、来場者が少なかったということ。

中島公園内ということで、良い所にあるが、豊平館は時計台に比べれば知名度が低いことも影響しているようです。

(腰原委員)

収益を上げないといけないというよりは、投資をする以上は、という過剰な期待になっている。どういう場にするかで、設備投資も変わってくる。

良い建物だからすごい施設を造ったら、飲食にたくさん来てくれるということではないということを意識していただければと思う。

(江面会長)

活用の面については、設備投資をどの程度回収できるか。読みをきちんとしていかないといけない。

それでは、4の協議事項に入りたい。1. 旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用の方針についてと、2. 利活用の方針について協議を進めていきたい。

これは皆さんと協議を重ねてきたが、それを事務局がまとめた。まず、事務局より説明をお願いしたい。

(大塚課長)

(資料2・3により説明)

(江面会長)

これまでの1回目、2回目のご意見を事務局がまとめた。

提案書案という形であるが、利活用の方針として、(1)建物の特性を活かした活用、(2)地域のまちづくりと連携した活用としてまとめた。

これからご意見をいただいて、提言書という形になろうかと思う。ご意見をお願いしたい。

(奥山副会長)

この事業を市民にバックアップしていただけるような工夫をした方が良いかなと思う。

利活用についてのアンケートであるとか、具体策を市民からも募集する。

(大塚課長)

豊平館でも1万人アンケートがありましたし、関心を持ってもらうことが、旧遷喬尋常小学校を考えてもらう1つだと思っています。

方法については、考えていこうと思います。アンケートにするのか、ワークショップにするのかということはあるが、意見を出していただいて、参加をしていただいて、関心を高めていく方向に持っていきたいと思います。

(江面課長)

私は、まさにこの点が要だと思う。これが欠けては意味がない。

市民を活かす仕組みとか、巻き込んでいく、協力を得られるとか、主体的に活動

をしていただくことが大事だ。

(真柴委員)

学び舎を卒業した卒業生は思いがあると思う。卒業生にワークショップで参加してもらって意見を出してもらいたい。熱い思いをその場を出してもらおうと良い意見が出ると思う。

(江面会長)

他にはありませんか。

(奥山副会長)

はい。真柴委員はプロとして、他にもこうしたら良い、ここが弱いとかないですか。

(真柴委員)

観光で使わせていただくことはよくあるが、やはり飲食ができないとか、冬は寒く、暖房器具がないので、お客さんを迎える施設として、文化財だから使いにくいということが多い。

一般の人に使いやすい施設にしていくか、その議論がとても大切だと思う。

(奥山副会長)

まさに、そこだと思う。豊平館に行った時も、同じことがあった。だから耐震化をしたり、改修したりして、表に見えないようにして改修を上手にする。

(江面会長)

他にも何か、市民を巻き込んでいく方向に関してありませんか。

ここから始まって、どう広がっていくか。その仕掛けを最終的につくりたいと、基本理念もあるが、市民にどう伝えていくのか、何かをしない限り、よく分からないということになる。

(山崎真委員)

ワークショップは、よく建築士会で、建築だとか、まちづくりだとかで、やっているが、卒業生は参加するけれども、他の人は参加しない。

最近、パブリックコメントをするが、なかなか集まらないと思う。

(江面会長)

意見が出てくるように仕掛けることも大切。

(山崎真委員)

旧遷喬尋常小学校を使ったり、試みをしていたりするが、その意見を吸い上げたりしていない。

今あるものを繋げていく、思いがあって旧遷喬尋常小学校を使っている人ばかりだから。

(江面会長)

今ある人たちを通して、遊ぶというのも良いと思う。堅苦しいことばかりをやるのではなくて、楽しむのも1つの方法だと思う。他にご意見はどうか。

(腰原委員)

市の持っている施設の稼働率とか、ほかの施設を使っている人に旧遷喬尋常小学校が使えるとすれば、使いますか、使いませんか、あるいは何が足りませんかというのが、1つのスタート地点のような気がする。

(江面会長)

そのようなアンケート調査をされたことがあるか。

(大塚課長)

実施していません。

(腰原委員)

これから何かイベントをやりましょうというよりは、特別な事業をやりましょうよと、その時に何が負担になるか、コスト面か、場所の面で負担になるのか、設備が足りないからなのかを押さえてやられるのが良いのではないかと。

(江面会長)

新しい方法というよりも、今まで、まちでされてきた活動を大事にする。先ほどからの議論は、アンケートを取って使えるようにしていく。設備の計画に結び付けていく。それも1つだ。

(山崎真委員)

真庭市のSDG'sの補助事業募集が始まっていると聞いた。持続可能なまちづくりと、お掃除の時間を月1回やっているが、そういうことに絡めて、米ぬか雑巾で掃除をしていくとか、乗っかっていけば良いのではないかと。

(吉永委員)

SDG'sの話が出たので、市でやろうと思っていることをお話する。SDG's未来都市ということで、真庭がモデルということで、未来にこのまちがどう生き残るかという観点で、お金をいただいている。

真庭は1つであり、地域文化の連携という内向きの価値がある。外向きの価値として、旧遷喬尋常小学校の価値は、日本の中でどういうものか。ある程度明確に整理したい。そうしないと、真庭市民に向かって、語れない。市としてやらないといけない新しいレベルのことをしていきたい。そういう市民活動の拠点として、舵を切っていけないといけないと思っている。

(江面会長)

いくつか指摘があったが、市全体の施策、予算的な面もあるので、あまりあれこれとできない。

集中して、ここにいろんなものが集まってこられる枠組みも必要なかと思った。先ほどから出ている持続可能という言葉が、今、社会でクローズアップされている。持続可能の何が持続すれば良いのか。何が持続すれば建物が生きてくるのか。新しいものに対応できるエネルギーが市民の中にあって、先生方や行政の中にもある。外の意見や見方をまとめなければならない。仕掛けていく必要があると思うので、案を項目建てして示していただいて、議論をしていきたい。資料4はどういう状況か。

(大塚課長)

資料4には、実施しているもの、こういうことができるのではないかと、来年度考えてやろうとしているもの、状況のところに、どのような部署が関わるのか、状況を記載しています。

(江面会長)

資料4にある内容を簡単に説明していただきたい。

(大塚課長)

(資料4により説明)

(江面会長)

これは、プロジェクトチームが考えたのか。市民に投げかけたものではないのか。

(大塚課長)

そこまではできていないが、サポーターズクラブを立ち上げようとしているところだが、サポーターになってくださるような方との会議をしている。

(有元部長)

サポーターズクラブは、現在、施設を利用していただいたり、文化団体であったり、マルシェを旧遷喬尋常小学校でやりたいとか、ロマネスク遷喬の会、活用をしていただいている方を集めています。

関わってくださる方や、関心がある方の意見を、いただいているところです。

関心がなかった方からどのようにして意見をいただくかを考えたい。

(江面会長)

これからサポーターズクラブができるのであれば、そういうようなことを利用する。興味がある人は集まってくるのだけれども、こちらの考えたことを市民にどのように伝えていくか。

市民を育てていくことに繋がる。いかに市民から考え方を吸収するか、いかに、こちらが考えていたことを市民に伝えていくか。1週間意見を掲示・公開するだけでは、だめだと思う。

(岡本委員)

私たちは旧遷喬尋常小学校を活用させてもらっている。

持続可能とか言われるが、自分たちが楽しんでいる姿を見せていればどうにかなるのではないかという気持ちでやっている。

利活用ができるように直したら、ここに来てもらえば、このまちの良さを知ってもらえるような場所になったら良いなあと思っている。この場所が楽しい場所にできたら良いなあと思っている。

(江面会長)

以前に、海外の人が重要伝統的建造物群保存地区で何に魅力を感じているか、3日間ぐらい案内をした。彼らが何を一番評価したか。

人と会って話せたり、食べたり、飲んだり、迎えてくれたことを一番評価した。思い出に残っている。

人とのつながりが大事で、それをどう活かしていくか、何か考えていけない。

(腰原委員)

先ほどの意見で「外から見たときに」を、「観光客から見たときに」に言い換えると、この学校の価値がよく分からない、知らない人がある。

重要文化財の中で尋常小学校がいくつあるかなと調べたら、3つであった。和歌山県橋本市の高野口小学校があるので、トップではないのかなと思う。宮城県登米市の登米小学校と、旧遷喬尋常小学校が尋常小学校である。

登米に来た人が、旧遷喬に行くというようなネットワーク、人や観光地をつなぐネットワークを深掘りすることが必要なのではないか。

建物や設計士江川三郎八の造った建造物たちのネットワークの拠点や中心になり、年に1回でも合同会議をやる。

尋常小学校もネットワークをつくれれば、全国大会ではないが、ぐるぐる回りながら同じような悩みを抱えている人たちと議論をすることもできる。

外から見た時のこの建物の価値であり、真庭市民に対して、この建物に投資をする効果が

あるということを伝えるという意味もあるので、外にネットワークを広げるためのキーワードを少し整理されたらどうか。

江川三郎八の名前が出たが、建物として、先駆者として、日本で建築博物館がない。建物の話を聞こうとしたら、実際に施設に行ってみるぐらいしかないので、1個のことしか分からないというよりは、群の代表として持っていけば、他の地域の宣伝もしてあげられる。

逆に地域で旧遷喬の宣伝もしてもらおうネットワークづくりもあると思う。

(吉永委員)

外から見た時の価値を1つ項目に入れていただきたい。内側からだけの視点になっているので、ぜひお願いしたい。

(江面会長)

ぜひ、1つの候補として対応を考えてもらえたらと思う。

シンポジウムをやったり、市長が中心になって全国組織をつくったりと、1つだとできなかつたことが、広がれなかつたものが、つながりで、いろんな可能性が出てくる。

続いて旧遷喬尋常小学校の施設整備について、旧遷喬尋常小学校の保存・管理の現状について、説明をお願いしたい。

(森参事)

(資料5・6により説明)

(江面会長)

今、保存・管理の状況ということで、どこまで残っているか、構造補強、管理状況についてご説明をいただいた。

かなり、構造補強の点と専門的な言葉や説明があった。全体を聞かれて、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

(腰原委員)

構造補強のことだが、必ず鉄骨で補強しないといけないような、合板、鋼材で構築とか、鉄骨・鉄筋ということなのですが、木造で補強をしようということではできないという判断か、それとも検討をしていないということなのか。

芥川オブザーバー)

木造というのは、壁の中に構造のフレームを入れるということで、よろしいか。

(腰原委員)

合板耐力壁案の方にも補強で鋼材が必要となっているので、鋼材フレームがないとダメなのか、木造の補強ができなくて鋼材のフレームを見込まないといけないというイメージなのか。

「水平力を負担する補強を鋼材で構築」とあるが、ここまで書かないように思うが。

(芥川オブザーバー)

空間が狭いこともあって、鋼材でないと数値がもたないという結果が出ている。木部の構造の関係で、数値を出すのに木が入りきらない空間なので、鉄骨構造や鋼材の補強を考えている。

(腰原委員)

それは、鉛直荷重の話か、水平力の話か、どちらか。

(芥川オブザーバー)

水平力だ。

(腰原委員)

水平力だとすると、あまり必要ないと思うが、選択肢として、合板耐力壁案と、鉄骨フレーム案がある。

木造の建物を木だけでは補強できないのか、鉄骨を入れないと補強できないのか。

鉄骨でかなり補強をしないといけないという意味なのか、もう少し頑張っていくと、木部材を中心とした補強が成り立つのか。価値的なイメージとしては大きい差がある。

鉄骨のフレームが本当に必要なのかというのは、今後、検討が必要だと思う。

(芥川オブザーバー)

今回は、数値を出していないというのはあるので、構造屋から案を出してもらった結果である。

(江面会長)

今のところだが、合板でするとなると、基礎レンガまでつながないと意味がないと思う。

ほかのところではやっているのは、レンガ造に穴を開けて、下までつないで、レンガの横の所にコンクリートの布基礎を回している。

それにレンガをくっつけるというような方法ではない、方法を考えたいと思っている。

合板で施工するというのは、揺れることはあまり考えない、固めるイメージがあるが、どうか。

(腰原委員)

昔は、合板は固いイメージがあったが、地震の震度が大きくなり過ぎて、変形が大きくなったときに、筋交い構造よりも、合板の方が、粘りがあって、変形が大きくなったときも、耐力壁が残り続けるという現状になってきた。

昔は、震度が小さかったので、筋交いより合板が良かった。現状では、大地震、震度6強という30分の1以上変形したときにも逆算すると、今みたいになってくる。

レンガ基礎に関しては、鉛直荷重については、レンガ基礎が働いていく。水平力に対して、あとの処理をどうしていくか。

一番簡単なのは、その分、コンクリート壁をしていきたいと思いますと思う。

細かく見ていけば、いろんな対処方があると思うので、この建物をどういう価値観で補強するかというときに、安く通常の方法で簡単にできる方法をやるのか。

この建物の価値観を考えていくと、この部材は、活かしたいということはやっていけるようになっていく。

外から見たときに、これが木造校舎の補強方法としての新しい提案がされた建物だという価値というのも生まれてくるのではないかと思う。

(江面会長)

今後、具体的な構造設計を構造設計屋さんにやってもらって、その基本的な案を、この委員会で新しく修理委員会ができて、そこで検討をしていくようになると思う。いろんな方法があり、どれが文化財的価値を踏襲していける方法なのか、慎重にならざるを得ない。

(吉永委員)

補強案というのは、今のままの形で補強をしていくのか。解体してやるのか。

(腰原委員)

合板耐力壁案は、ある程度解体して実施するし、鉄骨フレーム案は、逆に部屋の中に、が

んがん鉄骨が出ているが、本体を解体しませんということになるかもしれない。
今はいろんな手法があるので、どう使いたいのかということと、どれぐらいのコストでやるか、我慢しなくても良い。

構造の素人と思っている人でも、こんなのは嫌だ、空間は嫌だということと言える。

(江面会長)

実際の修理になると、このぐらいのレベルになると、全解体か、半解体になってしまうのではないかと。

屋根を全部解体して、屋根構造を解体して、梁と柱だけになってしまう。いずれにしても大きな修理になる。

(芥川オブザーバー)

窓枠、壁に属する部分を調べた。今、グレー系統と青色系統の暴露試験をしている。実際に色に変化していくかを観察している。

(江面会長)

だいたい当初に使った色は分かるものなのか。

(芥川オブザーバー)

今回は、前回に塗り補修をしていない部分を探して、膜をコーティング試験場で成分を構築して、ほぼ間違いない。

(江面会長)

ほかに何かご質問はないか。

(岡本委員)

先ほど、全解体か、半解体と言われていた。使いながら直せないのか。

5年も修理にかかるとなると、その間、活動が止まっていたら、5年後に活動を復活させると言われても復活できないと思う。使いながらの方法はないのか。

(芥川オブザーバー)

1つのネックとして、時間が必要となる。床下補強をするのに、コンクリートを打って補強をしないといけない。

ブロック部分が歪んできているのを直していかないといけない。建具全体をひき家するののか、半解体して、持ち上げて修理するのか、いろんな方法がある。

基礎をやって1回戻して、その一部分を使うことは可能かもしれない。1つは、工事中に使うようになると思うが、予算に大きな問題が出てくると思う。

一部分だけを修正しながら、一部分だけ触れないとか。一度にできないことは、逆に工期が伸びる可能性がある。

(江面会長)

おそらく、全解体、半解体になれば、一部分だけ修理して、一部分だけ稼働してというようになる。

もし活用するのなら、別の方法を考えないといけない。道後温泉みたいに、全部稼働している所でさえ、一気にやる方法にした。ここは、商売上の代替え施設がない。どこかを利用してということができない。

(吉永委員)

利活用をするためにやっていて、そのために利活用ができなくなるのは本末転倒だ。

(森上委員)

この会の最初から言っているが、どのような改修をするかで、決まると言ったかと思うが、

5年かかるのか、7年かかるのか、最初にどうするかを決めておくべきだったのではないか。

できれば全解体をしてもらえれば良いと思う。次に直すことは無理なので、ここで何でもしておくことが良いと思う。

(吉永委員)

この学校の価値は何かということだと思う。文化財としての価値というのが前提に来て、それは使う、使わないにかかわらず、直すことに価値があるというなら、そうなるし、今までの議論は使うことに価値があるというところに来ている。

それを止めてまでやるのか、という市民議論は結構難しい判断になると思う。

(江面会長)

ただ、その議論で、1回修理をしたら50年は触れないだろう。50年、100年スパンで考えて、5年のために、それを諦めるのかという議論になる。

(吉永委員)

その価値を市民が認めないと、「5年間止まってでも直すべきだ」という意見にならないと、難しい。

(江面会長)

屋根瓦から雨が漏れるということは、建物全体が動いている。雨漏りをしている所だけ直しても根本を直さないと、建物はねじれて回転している。

それが止まらないと、応急処置をしても動いているから、またしばらくしたら雨漏りをする。先ほどの予算があって、使っていくには市民の了解、納得が必要。

2、3年ごとに永久に修理をやっていくのではなくて、我慢して一気にしていけば、そのあとは、ある程度修理をする必要がなくなる。

(芥川オブザーバー)

5年というのは、全部直したらという話である。絶対直さないといけない基礎だとかは、1、2年ぐらい我慢していただいて、修理していただいて、使ってもらおう。

修理中は、文化財の見学会をやって、いろんな人に見てもらって、観光収入にしていける。文化財の修理が見えるというのは、観光資源になると思う。

(吉永委員)

校舎の脇と真ん中があって、真ん中をやっているときに、脇校舎が使えるとか、修理が1、2年を前提にするとか。

(腰原委員)

それがやる価値があるのか、やらないと駄目なのか。早く終わらせた方が良いのかという議論をしていかないといけない。

順番としてもウィングは良いが、中央棟を修理しているときは、広い範囲使えなくなる。選択肢としてはあるが、デメリットもたくさんある。

(岡本委員)

改修工事は、最短で2022年、まだ3年ある。そのあと2年で5年ぐらい準備期間があるよと思っておけば良い。その間に次の一手を考えておけば良い。

(江面会長)

ある程度、文化庁の方針というものはある。何が何でも決まっているのではなくて、新しい時代の、新しいやり方があるって良い。

それは、文化庁を説得できるような説明を、どうしても使いたいというような、そこがき

ちゃんと説明できないといけない。

時間の関係もあるので、続いて、「施設整備の方針について」、ご意見をいただけたらと思う。

(大塚課長)

項目をあげていき、皆様のご意見をまとめていきたいと考えております。

(江面会長)

この項目でまとめていきたいと事務局で考えているので、ご意見があったら、いただきたい。

(腰原委員)

今までは耐震というのが大きな問題になっていたが、木造旅館の話題になってくると、防災となったときに火災の対策が、活用すればするほど必要となる。

一般だと 500 m²を超えている建物を新築で造ろうとすると、いろいろと耐火設備をつけないといけない。

活用については、耐震もそうだが、火災に対する使い方とセットになってくるという意識を持っていただきたい。特にバリアフリーで、体の不自由な方を2階に上げるとすると、避難の話もある。

(山崎真委員)

防災面は、施設・設備だけではなくて、人の面、ソフト面も大切だ。

有元部長) 保存・整備対象部分の設定についてですが、活用の用途によって、分解して整備ができないかなと考えておりました。

コスト比較などが必要なのだということもご提言いただいた上で、具体的に整備をしていく中で、検討をしていきたいと考えております。十分にご意見をいただきたいと思います。

(江面会長)

どうやって使っていくかで、検討事項が変わってくる。中で火を使うことがあるか。

(腰原委員)

この部屋で火を使うといえ、それなりの対応策はある。

対応してないのに、使っていると問題がある。建築基準法上、火気使用室だけ対応できるようになっている。

(大塚課長)

今、懐かしの学校給食で使用しているのが、2階部分の教室です。教室1・2を使っている。もし、改修に入っても使えたら良いなと言うのが、教室1・2だろうと思いますが、そういう使い方ができるのか、どうか。

(吉永委員)

利活用が前提なので、使えないと全部終わってしまう。今やっていることを、もっとやるうではなくて、ゼロからの出発は、現実的にできない。

(腰原委員)

選択肢としては、まだある。工事の割り増し、どこから、どこまでをやるのか。

文化庁的には初めての試みであれば、いろいろと説得材料を自分たちで作っていかないといけない。みんなが本当にそれで行くのだという覚悟を決められるか。

(江面会長)

ほかにご意見はいかがか。

(委員)
(意見なし)
(江面会長)

協議事項が終わったので、事務局にマイクをお返しする。

(大塚会長)

その他で、次回第4回目ですが、1月17日(木)に行いたいと思いますのでご予定をお願いいたします。

ほかにございませんでしたら、それでは、閉会へ移らせていただきます。閉会のごあいさつを奥山副会長よりお願いいたします。

(奥山副会長)

第3回検討委員会ありがとうございました。今回は、先進地の視察報告、スケジュールをいただいた、ということもあり、具体的なイメージが少しわいてきた。

だからこそ、活発に真剣にご協議いただけたのかなと感じた。江面会長が、この会議の中で、何度か言われたが、この会だけで終わったら駄目だと、この会だけで、すんなり改修では何にもならないといわれたことが印象に残っている。

大切なのは、市民を巻き込むムードづくり、一人一人の難しい面があるが、だからこそ大事にしながら、改修に5年かかると言われたが、5年は過ぎてしまえば、あっという間ということになると思う。

いずれにしても真庭の宝を、これからも活用し、真庭をさらに良くしていくという視点で積極的にかかわっていただきたい。

今後ともよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

閉会 午後5時32分